



「あらかわの心」ニュース

第16号 平成25年3月6日発行

〔発行〕「あらかわの心」推進運動区民委員会

〔事務局〕〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 荒川区子育て支援部児童青少年課内 TEL 3802-3111 内線3833 FAX 3802-0809

〔メールアドレス〕arakoko@city.arakawa.tokyo.jp [ホームページアドレス] http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kosodate/index.html

「あらかわの心」推進運動区民委員会では、大人が手本となり、大人も子どもも互いに尊重し、共に生きる地域社会の実現をめざして、3つの視点に基づき心をつなぐ5つの取り組みを実践しています。その内容をわかりやすくマンガ形式にまとめた新たなリーフレットを作成しました。

新しいリーフレットの表紙には、「あらかわの心」シンボルマークとともに荒川区のシンボルキャラクター、あら坊・あらみい、も登場します。表紙を開くとまず大人（保護者）の方に理解・実践していただきたい「あらかわの心」についてイラスト付きで紹介します。さらに1ページ開くと、子どもたちに伝えたい「あらかわの心」がマンガになっています。

ご家庭で、親子で一緒に新リーフレットをご覧いただければと思います。



「あらかわの心」リーフレットリーニューアル

平成25年2月2日（土）、東日暮里三丁目ひろば館において「あらかわの心」カルタ大会を開催しました。

今年で4回目となり恒例となつたカルタ大会は、「あらかわの心」推進運動区民委員会が作成したカルタを使った競技会です。

当日は、未就学児（小学校に入学する前のお子さん）の部、小学校低学年（4年から6年生）の部、小学校高学年（4年から6年生）の部に分かれ70名もの参加者がメダルを目指して熱い戦いを繰り広げました。

競技では、参加者ばかりではなく、応援の3年生）の部、小学校低学年（1年から3年生）の部で、区制80周年を区民みんなでお祝いする「区民ミュージカル「あらかわ宝物さがし物語」が上演されました。

（日）サンバール荒川大ホールにおいて、区制80周年を区民みんなでお祝いする「区民ミュージカル「あらかわ宝物さがし物語」が上演されました。

オーディションで選ばれた区内の小・中・高校生と大人を合わせた112名の出演者は、20回にわたる練習を重ね本番を迎えるました。当日は座席引き換えに長蛇の列ができ、会場内は座りきれないほど多くの観客で一杯になりました。

新リーフレットは、3月下旬より区役所児童青少年課・区民事務所・図書館等で配布する他、各小・中学校の児童・生徒へも順次配布する予定です。また、「あらかわ子育て応援サイト」でもご覧になります。

区制80周年区民ミュージカル『あらかわ宝物さがし物語』



▲力を合わせて感動的熱演!!

ことを知らなかつた子どもたちが、荒川区の今や昔を調べ、宝物を探していくというストーリーで、生バンドの演奏による十数曲のオリジナル曲に合わせて上演していきます。荒川区に残る「人々の支えあい」など、多くの宝物を発見していく子どもたちの明るく元気な熱演に感動の涙を流す方がたくさんいらっしゃいました。

（日）サンバール荒川大ホールにおいて、区制80周年を区民みんなでお祝いする「区民ミュージカル「あらかわ宝物さがし物語」が上演されました。

尾久消防少年団クリスマス会



▲大勢で楽しい時間を過ごしました。

尾久消防少年団クリスマス会

クリスマス会の後、荒川西ライオンズクラブ様からのクリスマスプレゼント・区民ミュージカル「あらかわ宝物さがし物語」を鑑賞。子どもたちにとって荒川の歴史を見つけるよい機会となりました。



第4回「あらかわの心」カルタ大会

ご家族や友達も一体となり、大いに盛り上がりました。

カルタ大会を通して、子どもたちが積極的に「あらかわの心」に触れ、推進運動の輪をさらに広げていってほしいと思います。

○各部の優勝者は以下のとおりです

・未就学児の部 浅井 みひろさん（北豊島幼稚園）
・小学校低学年（1年から3年生）の部 渡辺 美結さん（ひぐらし小）
・小学校高学年（4年から6年生）の部 宇山 美優さん（九狭小）

▶優勝メダルは誰の手に?!

荒川宮地町会 「宮地もちつき大会」



▲息ぴったりの町会メンバー

荒川宮地町会では恒例行事として、勤労感謝の日を中心に「宮地もちつき大会」を行っています。250名以上の方が集まって実施した「もちつき体験」「おもちのおみやげ」「試食」は毎回大好評です。

第14回目の今回からは「宮地ふるさと祭」として昔あそびを取り入れました。「ベーゴマ」「玉つき」「どうぶつしょうぎ」「コマ廻し」などは多くの子どもたちに喜ばれました。

荒川宮地町会 太田 元次郎

青少年育成南千住地区委員会 「新年凧あげ大会」

荒川明るい社会づくりの会 設立30周年記念式典

平成25年1月13日(日)、荒川総合スポーツセンター及び野球場において、「新年凧あげ大会」が開催されました。311名の参加者と93名のスタッフにより、開会式に統一、凧の製作が開始されました。

スタッフの指導により、皆思い思いの絵柄を描き、それぞれに創意工夫を凝らした凧ができあがりました。完成した凧を持って野球場に移動し、この時期にしては珍しい程の好天に恵まれた中、親子の楽しむ姿を喜んでいたように、凧は大空高く上りました。

荒川区青少年育成南千住地区委員会 秋山 咲子



▲個性あふれる凧が完成!!

平成24年11月11日(日)サンバール荒川において、西川区長はじめ、来賓50名のご参加をいただき、会員200名とともに、荒川明るい社会づくりの会設立30周年記念式典を行いました。実行委員会では、会員以外の青年や壮年の方々にも呼びかけ、被災地応援メッセージの寄せ書きや募金活動を行い、記念品には釜石の地酒を用意する等、多くの方にご協力をいただきました。

また、「未来への夢」と題した小学生の絵の掲載や、家族参 加型清掃活動を西尾久全域で実施するなど、年代を問わず皆生き生きとした楽しい時間を過ごすことができました。

荒川明るい社会づくりの会 富里 美砂子



▲多くの方にご参加いただきました

「大韓老人会済州市支会」が訪問されました



▶よつよつ荒川区へ!

平成24年11月27日(火)、荒川区高年者クラブ連合会(以下、荒高連)と友好協定を結んでいる「大韓老人会済州市支会」の35名が荒川区を訪問されました。

今回の来訪は、荒高連が7月12日(木)から一泊三日で済州島を訪れ、済州市長や済州市老人支会などを表敬訪問し友好を深めたことへのお礼として実施されたものです。

11月28日(水)には荒高連の会長例会に出席いただき、意見交換などで友好を温めました。最後に歌でのエール交換をし、名残惜しくもお別れとなりました。

友好協定は今年で5周年を迎えたので、毎年秋に荒川区高年者クラブ連合会が済州島を訪問する形で、これまでに歌でのエール交換をしてきました。

荒川区高年者クラブ連合会 長谷川 敏男

荒小P連OB会総会及び懇親会



▲長唄をご披露いただきました

平成24年11月29日(木)、サンバール荒川にて、荒川区立小学校PTA連合会OB会の総会及び懇親会を行いました。

PTA連合会OB会とは、元荒川区立小学校PTA会長の有志と元小学校部会幹事長会員相互で構成されている親睦団体です。

役員は2年ごとに改選されますが、今年は改選の年ではないものの緊張感もあり、和やかさもあった

総会が無事に終わりました。

総会の後には、南谷舞・安岡麻里子両氏による「長唄のこれからについて」と題した講演と、長唄の「勧進帳」が披露されました。

長唄は日々の馴染みの少ない音楽でしたが、三味線の音色とともに日本古典音楽を学び、興味深く聴かせていただきました。

荒川区立小学校PTA連合会OB会 清水 恵美子

熱戦! ドッヂビークリスマス大会



◀皆さん、お疲れ様でした!

平成24年12月23日(日)荒川総合スポーツセンターにおいて、「ドッヂビークリスマス大会」が開催されました。

ドッヂビーとは、ウレタンやナイロン素材の柔らかい円盤(ディスク)のこと、ドッヂビーを使用したドッヂボールを「ディスクドッヂ」と言います。安全性が高く、腕力や体格の差が出にくいスポーツのため、子どもたちに大人気です。

今回は小学生大会と、低学年の部は10チーム(115人)、高学年の部は11チーム(132人)が参加しました。どのチームも技術の向上が見られ、多くの方の声援をいただき、熱戦が繰り広げられました。

閉会式では、参加チーム全てに参加賞が渡され、大変盛り上がったひと時となりました。

荒川区スポーツ推進委員会 火原 日美子

平成25年度「家庭倫理講演会」の お知らせ

「おかあさん」をテーマに、講演会を行います。

自分自身の原点を省みることで、夫婦・親子の絆が深まり高まって、家庭が愛の泉となりますよう願い、家族ひとりひとりが輝き、よりくなるために必要な心の持ち方と涵養、その実践をご紹介します。

皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 平成25年4月14日(日)

午前10時20分～正午

場 所 サンバール荒川3階小ホール

講 師 平田智恵子専任講師

入場券 千円

そ 他 託児室あり

主 催 社団法人倫理研究所

問 合せ 家庭倫理の会荒川区 和田

電 話 (3892) 1725

FAX (3892) 1846

心の東京革命とは、次代を担う子どもたちに対して、親と大人が責任をもって正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で当然の心得を伝えていく取組です。